原の辻遺跡調査事務所調査報告書 第13集

# 興触川上遺跡

幡鉾川流域総合整備計画 (圃場整備事業) に伴う緊急発掘調査報告書

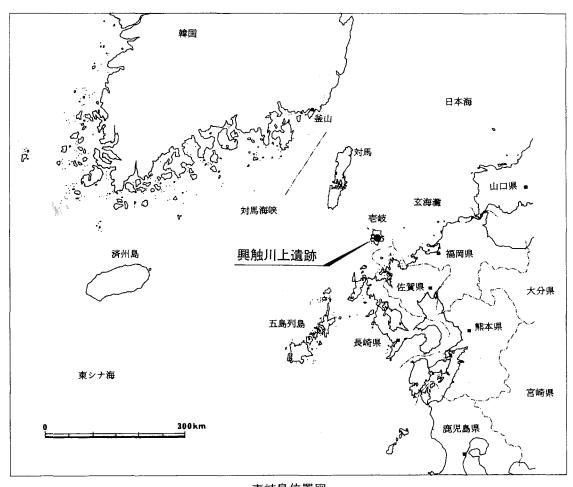
1 9 9 9

長崎県教育委員会

原の辻遺跡調査事務所調査報告書 第13集

# 興触川上遺跡

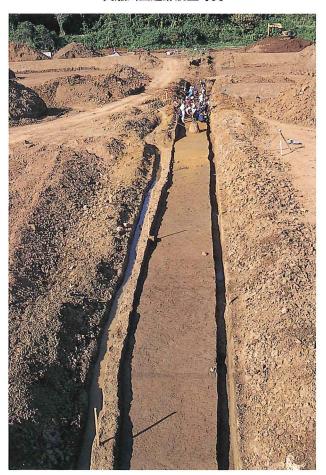
## 幡鉾川流域総合整備計画 (圃場整備事業) に伴う緊急発掘調査報告書



壱岐島位置図



興触川上遺跡航空写真



調査

状

況

### 発刊にあたって

本書は、幡鉾川流域総合整備計画(県営は場整備事業)に伴って実施した興触川上遺跡の発掘調査報告書です。

この興触川上遺跡は、壱岐島最大の穀倉地帯である深江田原の北辺に所在し、北側には鉾ノ木山が 横たわっており、その南麓にあたります。

この一帯からは、旧石器時代の石器も採集されており、近くの興神社は、地名の呼称が国府(こう)に通じることや、国府に関係ある印鑰社(いんにゃくしゃ)として祀ってあるところから、律令時代に置かれた壱岐国府の有力な推定地とされています。

この興神社西側の興触遺跡からは、律令時代から中性にかけての溝や土壙、柱穴などの遺構や国産 はもとより中国や朝鮮半島の遺物が確認され、この地に何らかの拠点または有力者が存在したことが 想定されています。

また、この興神社の北側には中世・松浦党の有力者である志佐氏の代官・真弓氏の居城である覩城 も所在しています。

今回の発掘調査では、中世の水田跡と推定される杭列を確認し、律令時代から中世にかけての国産 品や中国・朝鮮半島の遺物が出土しています。中国越州窯系青磁や国産の緑釉陶器の出土は、やはり この地の重要さを示すものと思われ、壱岐国府推定地であることを示唆するものかもしれません。

今回の発掘調査の成果を学術的な資料として、また、文化財の保護のため役立てていただければ幸いです。

平成11年3月31日

長崎県教育委員会教育長 出 口 啓二郎

## 例 言

- 1. 本書は、幡鉾川流域総合整備計画に係る排水路工事に伴って実施した、興触川上遺跡の緊急発掘調査報告書である。遺跡所在地は、長崎県壱岐郡芦辺町湯岳興触字川上739ほかである。
- 2. 事業主体は、長崎県壱岐支庁農林水産部耕地課、調査主体は、長崎県教育委員会である。調査担当は、長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所、文化財保護主事、村川逸朗である。調査期間は、平成10年10月25日~同年11月4日までで、調査面積は、118㎡(芦辺町分は18.0㎡)である。
- 3. 本書の執筆・編集は村川が行った。

### 総 目 次

Ι.	遺	跡の地	也理的•	歷史的環境·		•••••	•••••		 	•••••		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• 1
	1.	地理的	勺環境										
	2.	歷史的	勺環境										
Π.	調	查概要	更										
	(1)	)調査	<b>≦経緯</b> …			•••••	•••••	•••••	 		•••••		• 4
	(2)	)調	查…		•••••	•••••	•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	 	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	•••••	. //
	(3)	土	層…	•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	•••••	•••••	 •	•••••	•••••	•••••	. //
	` '	)遺	.,,	•••••									
	(5)	遺	物…	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •			•••••		 •	•••••	•••••	•••••	. //
ш	4:	L	ж						 				

#### Ⅰ. 遺跡の地理的・歴史的環境

#### 1. 地理的環境

壱岐は、九州本土と朝鮮半島の間に位置し、対馬とともに飛び石的に玄界灘に浮かんでいる。壱岐・福岡県糸島半島間約33km、壱岐・対馬間約48km,対馬・朝鮮半島の釜山市間が約49.5kmで、ほぼ等間隔に位置している。

行政的には長崎県に属しているものの、直接的に通じている交通は大村市の長崎空港と壱岐空港を結ぶ航空便しかなく、生活のための船の便からすると、福岡の博多とフェリーで約2時間、佐賀県の呼子と同じくフェリーで約1時間で結ばれており、経済圏は福岡に属している。

壱岐島は、全体的に起伏が少なくなだらかなところで、県本土部の北松浦半島の地形に似ている。 対馬の地形が山がちで、平野がほとんどみられないのに対して好対照をなしている。島の大きさは東 西15km、南北17km、面積139kmの小さな島であるが、長崎県諫早市の干拓以前は、県内最大の平野 は、この壱岐の芦辺町と石田町にまたがる「深江田原」であった。かつては、この小さな島に県内最 大の平野があったことになる。この「深江田原」の中を壱岐島最大の流域面積をもつ幡鉾川が東から 西に流れて、東岸の内海にそそいでいる。

#### 2. 歴史的環境

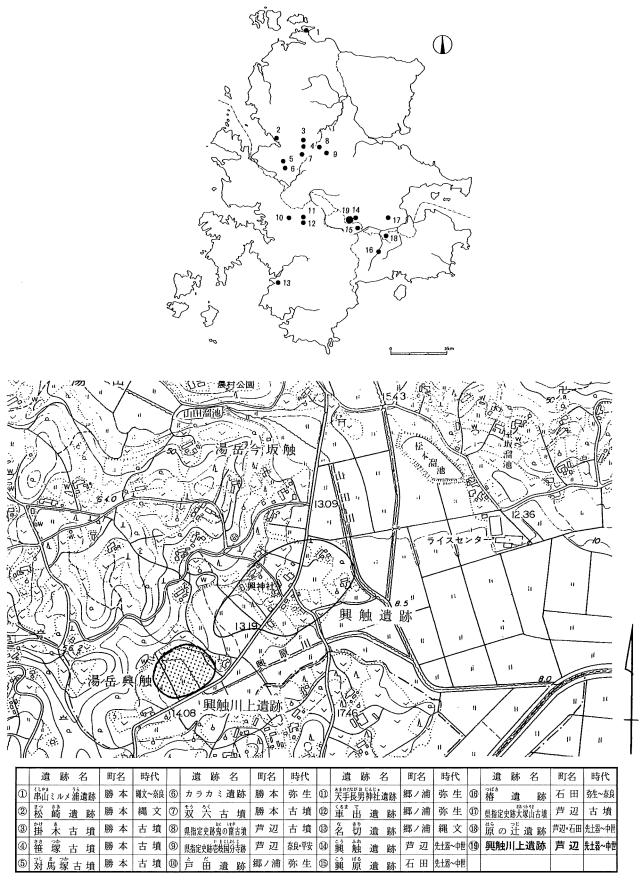
壱岐島は、その地理的特性から朝鮮半島を経由して大陸からの文化を摂取する窓口として、また、 日本から大陸への行く場合の拠点として重要な役割を果たしてきた。

古くは、「原の辻型」台形石器に代表されるように旧石器時代からの遺跡から確認されている。縄文時代の遺跡は、特に多いということはないが、弥生時代になると、中国の3世紀の歴史書である『魏志倭人伝』に「一支国」として登場する。これには「一支国に着く。官をまた卑狗といい、副官を卑奴母離という。竹林・叢林が多く、三千ばかりの家がある。やや田地があり、田を耕してもなお食べるには足らず、また南北に行き米を買うなどする。」と記しており、その当時のことがわかる貴重な記録となっている。

この「一支国」の首都として、「深江田原」内の芦辺町と石田町にまたがる原の辻遺跡が、多重環濠をもつことと、面積が100にもおよび広大であること、鏡等の出土遺物等により特定されている。

古墳時代では、5世紀代の大塚山古墳が原の辻遺跡を見下ろす山の上に築かれているものの、3世紀の古墳時代前期までつづく原の辻遺跡に継続するような4世紀代の古墳は現在のところ知られていない。この後6世紀代になると、島内の中央部に6世紀前葉の勝本町対馬塚古墳、同じく中頃の勝本町双六古墳、後葉の勝本町笹塚古墳、同じく末期の芦辺町鬼の窟古墳等の巨大古墳が築かれるようになる。

これらの古墳の中で、幸運にも発掘調査によってその副葬品が確認された勝本町笹塚古墳の金銅製



第1図 壱岐島内主要遺跡と興触川上遺跡

の馬具等の副葬品は、奈良県藤ノ木古墳の金銅製の副葬品にも匹敵するような内容をもっている。この副葬品を観察された大塚初重氏は、壱岐の島にこれほどの内容の副葬品を持つ古墳があることを驚かれたことがあるが、これら6世紀の巨大古墳と笹塚古墳の金銅製の馬具等の副葬品はどういうことをあらわしているのだろうか。

笹塚古墳の調査結果をまとめた藤田和裕氏は(1),要約すると,以下のように記している。

朝鮮半島の技術者や鉄資源を欲しがっている大和政権の、朝鮮半島への交通路に対馬とともに壱岐が位置しており、磐井の乱を教訓に、海上交通を技とする壱岐の豪族に、半島系の豪華な馬具等を贈って政治的なつながりをもとうとした。さほど大きくない壱岐の島に全長90m以上の双六古墳等の巨大古墳が築かれたのは、以上のような情勢とは無関係とは考えられないとしている。

この6世紀の朝鮮半島の情勢は、新羅の勢力の台頭による百済の鉄資源等の確保の危機があり、大和政権にとってはこの利権をなんとしても守りたかったことと、鬼頭清明氏によると(2)、この6世紀の大迹王政権は内政的に、5世紀の倭王権の軍事的拡張主義から脱却して政治的秩序を強化する必要性にせまられていたことがあるという。このはざまに継体21年(527)年の磐井の乱があり、大陸との海上交通の拠点であった壱岐の壱伎直に代表されるような豪族に対して政治的懐柔策がとられたのであろう。

8世紀にはいると、壱岐は国としての扱いを受けるようになり、国府が設置された。国府の場所については諸説あり、場所は特定されていない。原の辻遺跡では、奈良から平安時代の木簡、硯、石帯、初期貿易陶磁器、施釉陶器等が出土しており、国府解明の糸口になるものかもしれない。

また、湯岳の地の興神社に、国府に関係ある印鑰社(いんにゃくしゃ)が祀られたいることと、その地名(こう)から国府の有力な推定地ともなっている。

#### 参考文献

- 1. 長崎県教育委員会『県内古墳群詳細分布調査報告書』長崎県文化財調査報告書第106集 1992
- 2. 鬼頭清明「五 継体朝と東アジア」小田富士雄編『古代を考える 磐井の乱』吉川弘文館 1993

#### Ⅱ.調 査 概 要

#### (1) 調査経緯

興触川上遺跡の調査は、県営ほ場整備事業の工事に伴う排水溝敷設予定地に限って行った。

#### (2) 調 査

工事予定区域に、2m×59mの調査区を設けた。便宜上、工事用の中心杭33を境に、この杭より南側をA区、北側をB区とした。

#### (3) 土 層

土層は、1層;表土層、2層;にぶい褐色土層、3層;にぶい赤褐色土層、4層;暗褐色土層(中世の包含層)、5層;灰褐色土層、6層;橙色礫層7層;灰褐色土層、8層;暗赤褐色土 層9層;灰赤色土層、10層;明赤褐色土層となっている。

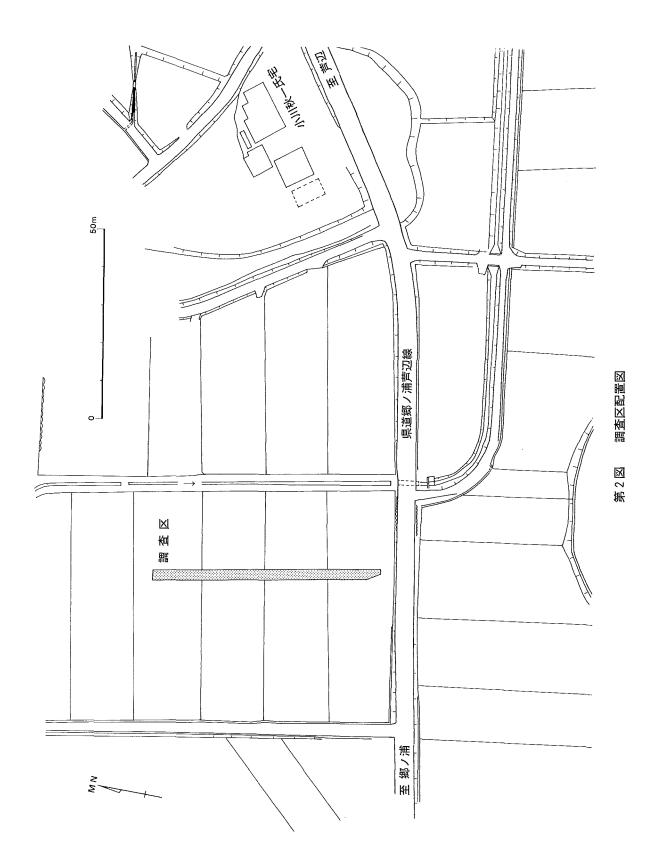
#### (4) 遺 構

A区西側で杭列を確認した。調査区内で3本、調査区外西側で2本、計5本が東西の向きで並んでいた。北側からこの杭列まで暗褐色土層の包含層があり、これより南には、グライ土壌化した、にぶい褐色の粘質土層がある。この杭列を境として北側には暗褐色の中世期の包含層、南にはグライ土壌化した区域が広がっているのが確認された。

#### (5) 遺 物

今回の調査で719点の遺物が出土した。包含層内出土遺物の内容としては、古代の緑釉陶器や須恵器や土師器、中国から輸入された越州窯系青磁・龍泉窯系青磁等をはじめとする古代・中世の陶磁器等の破片等が出土した。なお、礫層下の灰褐色土層から旧石器時代の台形石器が3点(第5図,25~27)とピエス・エスキーユ(第5図,28)が1点出土した。

1は須恵器の口縁部片である。二重口縁状を呈する特徴的な形態から8世紀末~9世紀初めのものか。表採品である。2は「く」字状口縁甕の口縁部片である。奈良時代のものか。3は緑釉陶器の口縁部の破片である。土師器の上に深い緑色の釉をかける。B区2層からの出土である。4は越州窯系青磁の口縁部片である。同じくB区2層からの出土である。5,6は龍泉窯系青磁の口縁部片である。5はB区2層の出土。6は表採品である。7,8は玉縁口縁白磁の口縁部片である。7は2層出土。8は表採品。9,10は白磁の口縁部片で,ともにB区2層出土。11は高麗青磁の口縁部片である。B区2層出土。12は白磁の底部片である。底部は露胎。A区4層の出土である。13も白磁の底部片である。同じく底部は露胎で,内底の段が認められる。表採品である。14は白磁である。口縁端部はやや引き伸ばし気味に外反しておさまる。B区2層の出土である。15は朝鮮陶磁器で象眼青磁である。小片であるため器形等は不明。表採品。17は滑石製の石鍋の口縁部片である。鍔が縦につくタイプと思われる。表採品。18,19は中国製のすり鉢片である。色調はあずき色を呈し,胎土は白色の小砂粒を含むもののよくしまっている。内面は使用による剥落か,やや荒れている。A区3層の出土である。

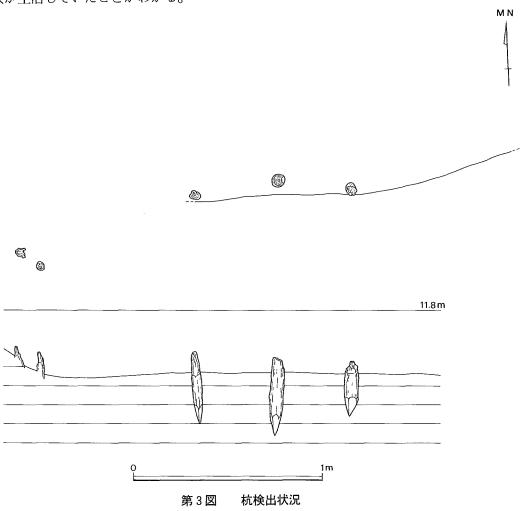


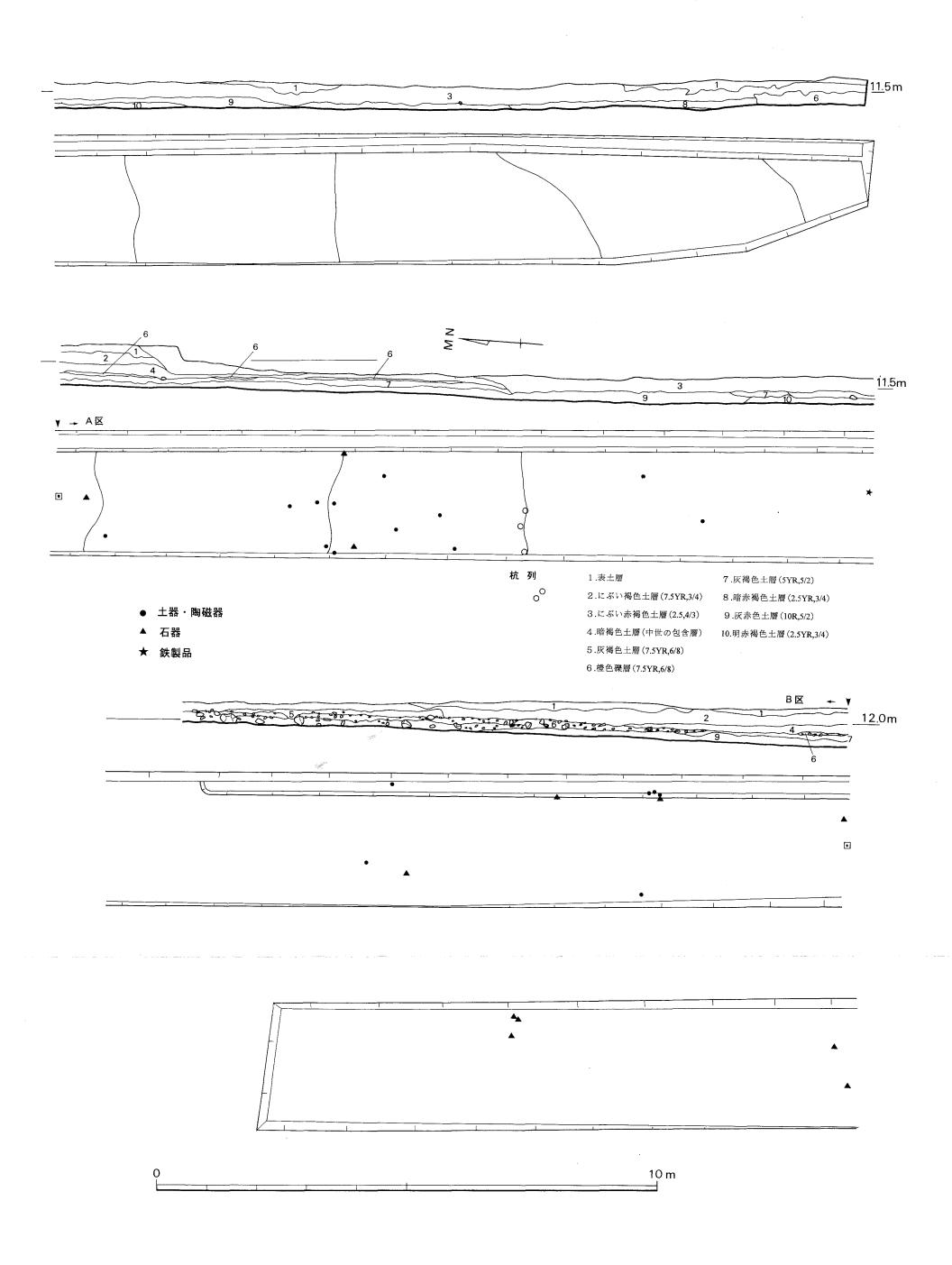
20は唐津焼の底部片である。底部露胎, 2層からの出土である。21,22は近世陶磁器である。21は見込みに五弁花が押されているところから18世紀代のものであろう。 B区 2層からの出土である。22は 盃の底部片である。 B区 2層からの出土である。23は磁器を利用した円盤状陶磁製品である。 2層からの出土である。24は明青花の口縁部片であろう。 2層からの出土である。

#### Ⅲ. ま と め

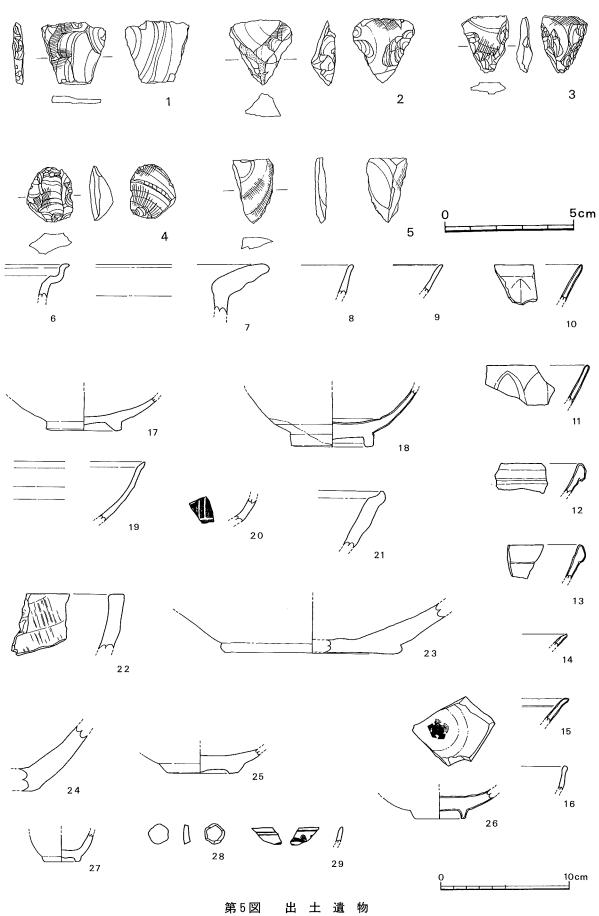
調査成果としては、A、B区の境から9m程のところで東西に並ぶ杭列を確認し、この杭列より北側には包含層を確認し、杭列より南側では粘質土層のグライ化土壌を確認した。その検出状況より杭列より北側に生活域を、杭列南側に水田域を想定できるものと思われる。この水田の時期としては、水田域と推定される部分の3層中から、中世期の中国製のすり鉢を検出したことから、この時期のものであろう。

なお、越州窯系青磁等の出土は、この遺跡の重要性を示すものと考えられるが、包含層からの出土ではなく、その上層からの出土なので、遺跡の主体部とは考えられずその場所としては、調査地北側の標高が若干高くなる山裾になるのではないだろうか。旧石器時代の台形石器も出土したことから、古くから人が生活していたことがわかる。





~7

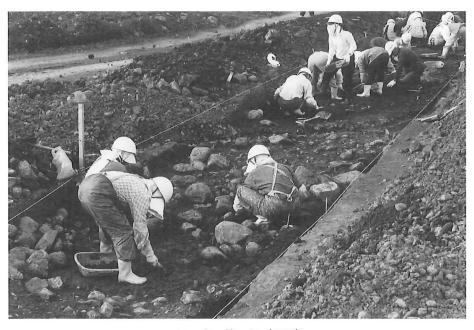


出 土 遺 物

# 図 版



調査区遠景(南西から撮影)



調 査 状 況(B区)



A 区 層



同 上



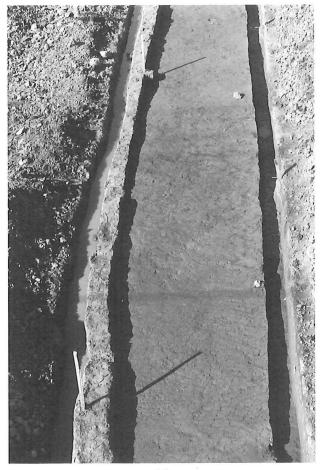
A区杭列検出状況



杭下部の様子



調査区全体の状況



A区南端の様子

# 報告書抄録

ふりが	な こうふれ	かわ	かみい	せき	* 1				_		
	名 興 触	<u>"</u> 川		-							
音									版調 <b>查</b> 報告		
前 音 石   幡坪川加域総合整備計画 (画場整備事業) に任う程成文化的系念光細語   巻 次											
シリーズ:		原の辻遺跡調査事務所調査報告書									
シリーズ番-		第13集									
		村川逸明									
		長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所									
		長崎県壱岐郡芦辺町深江鶴亀触1092-1									
発行年月		西暦1999年3月31日									
 ふりがな 所収遺跡	 ふりがな 所 在 地			ー ド 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因		
こうふれかわかみ い せき 興触川上遺跡	ながさきけん い きく 長崎県壱岐れ ベちょうゆ たけこう 辺 町湯岳興	が芦			33度 45分 50秒	129度 43分 50秒	1998 10 25 ~ 1998 11 04	118 m²	圃場整備		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺跡		主な遺物		特記事項			
興触川上遺跡		古代~中世		杭列		<b>土師器</b> 貿易陶磁器					

原の辻遺跡調査事務所調査報告書第13集

興触川上遺跡

1999. 3. 31

発行 長崎県教育委員会 長崎市江戸町2番13号

印刷 株式会社 リューブン